

The Royal Edict of Hōgen 1 (1156), Intercalary 9th Month 18th Day (KW08-Shiryō 4, *Hyōhanki*: Hōgen no Shinsei - Item 2)

FINAL FINAL

Source:

保元元年閏九月一八日条 宣旨 (2)
保元の新制¹ (兵範記²)

Zōho shiryō taisei Vol. 19, *Hyōhanki* 2, 139.³
Kiroku monjo-hen, Vol. 5, *Jinshaki* 1, 101-2.⁴

Laura, Nan, and Sachiko
Jan 17, 2009

原文

一、可 令同下知諸國司、停止同社寺院宮諸家庄園本免外、加納餘田并庄民濫行事、

仰、件庄園等、或載官省符、或爲勅免地、四至坪付券契分明、而世及澆季、人好貪禁、號加納、稱出作、本免之外押領公田、暗減率法、對捍官物、蚕食之漸、狼戾之基也、兼亦以在庁官人・郡司・百姓補庄官、定寄人、恣募名田、遁避課役、郡縣之滅亡、乃貢之擁怠、職而由此由、庄園相共注出加納、停止濫行、令從國務、若庄家寄事於左右、不弁決理非者、國司勒狀、早經言上、隨其狀跡、且停廢庄號、且召取庄司、下檢非違使、宜令糾彈、但帶宣旨并白川・鳥羽兩院庁下文者、領家進件證文、宜待天裁、

読み下し

一、同じく諸国司に下知し、停止 (ちょうじ) せしむべし。同じく社寺 (しゃじ) ・院宮 (いんぐう) ・⁵諸家 (しよけ/しよか) ⁶の庄園、本免の外 (ほか) 、

¹ 新制は天皇・院が出す律令を補完する法令。保元の新制は後白河が保元時代に出した全部の法令を示すが、特に保元元年 (1156) 閏 9.18 出された新しい庄園の停止を命じる新制のこと。(国史大辞典)

² 正三位兵部卿 (ひょうぶきょう) 平信範 (たいらののぶのり) の日記。1132-1164 の記入が現存している。信範は蔵人などを長く働いて、いろいろな文書を日記に含めた。信範の高棟流平氏は日記を書いた人が多いので「日記の家」とされる。(『平安時代史事典』)

³ *Zōho Shiryō Taisei Kankōkai*, ed. *Hyōhanki* 2. Vol. 19. Kyoto: Rinsen Shoten, 1965.

⁴ *Yōmei Bunko*, ed. *Jinshaki* 1. Vol. 5, *Kiroku Monjo-Hen*. Tokyo: Shibunkaku Shuppan, 1968.

加納（かのう）⁷・余田⁸（よでん）並（ならびに）庄民（しょうみん）濫行（らんぎょう／らんこう）の事。

仰（おほ）す。件の庄園等、或は官省符⁹に載し、或は勅免（ちよくめん）の地（ち）為（た）り。四至（しいし）¹⁰・坪付（つぼづけ）¹¹、券契（けんけい）¹²分明（ぶんみょう）¹³。而（しかる）に、世、澆季（ぎょうき）¹⁴に及び、人、貪婪（どんらん）¹⁵を好（この）み、加納と号し、出作（しゅっさく）¹⁶と称す。本免（ほんめん）¹⁷の外（ほか）、公田¹⁸を押領し、暗（むやみ）に率法（りつ

⁵ 院宮：上皇、法皇、女院および三后（太皇太后、皇太后、皇后）、准后、東宮などの総称。また、その居住する殿舎。「いんきゅう」ともいう。

⁶ 諸家：貴族等の家を指す。

⁷ 加納：庄園の不輸不入権を承認された田地のほか、耕作された土地でその庄園の付属地として認められた地域をいう。これを詐称して庄園を拡大しようとする者が多く、平安末期の庄園整理政策で整理の対象とされた。加納余田。余田。加納。

⁸ 余田：平安時代以降から中世にかけて、庄園に本来認められている田地以外の田。台帳記載以外の田であるが、これが公認されると加納あるいは加納余田・加納田と呼ばれる。

⁹ 官省符：特定の庄園に対し、不輸租すなわち免税の特権を認める官符。太政官符や太政官の命令により民部省が発した民部省符をいう。この特権を認められた庄園を官省符荘という。

¹⁰ 四至：所有地、耕作地、寺域などの東西南北の四方の境界。四極。境内。

¹¹ 坪付：土地の所在・面積についての記載のこと。（『日本庄園史大辞典』）

¹² 券契：坪を書きつけて条里の中の田地の所在地を示し、田積を集計した文書・帳簿。また、その帳簿をつけること。坪付帳。

¹³ 分明：古くは「ふんめい」とも。他と区別がついてはっきりしていること。はっきりわかること。あきらかなこと。明白なこと。また、そのさま。ふんみょう。

¹⁴ 澆季：道徳の薄れた人情軽薄な末の世。末世。澆末（ぎょうまつ）。

¹⁵ 貪婪：むさぼって、飽くことを知らないこと。ひどく欲が深いこと。また、そのさま。貪欲。

¹⁶ 出作：庄園制において、自分の領主の土地以外の庄園・公領を耕作すること。または、公民が周辺の庄田を工作したり、庄民が周辺の公田や他荘の田地を工作することを言う。出作は、公領や庄園が入り交じって存在していた畿内ではごく普通のこと、畿外の諸国でもまた多く見られた。出作関係が存在する場合、公民は庄園領主の威を借りて国司に対捍し、庄民もまた国司または他荘の庄園領主の威を借りて負担の軽減を策する等の動きを示している。かかる農民（田堵）の動きを利用して、庄園領主も庄域の拡大を増し、公領や他荘を自荘内に取り込んで加納田にすることが多かった。「でさく」ともいう。（『平安時代史事典』・『国史大事典』・『日本国語大辞典』）

¹⁷ 本免：本免田を指す。庄園制下で、国衙（こくが）よりの課役負担が正式に免除されている田地。また、新免田に対して、古い時代からの免田。本免田以外に、庄民が耕作地を拡大した田地である加納・余田・出作公田などに対する言葉。加納・余田・出作公田などは官物賦課などの国衙の一定の支配が及ぶので、国司側の検田がしばしば行われた。本免田に対しても、その坪付・面積の確認の為国司の検田が行われることもあったが、やがて本免田は官物不輸であるため、国衙による検田使入勘は無意味であるという論理から、本免田に対する不入を実現していった。本来的には官省符荘で認められた田地のみを指したが、後には、国衙側が国図などに記載し、庄園領主の領地が認められた田地であれば、本免田として扱われたようである。（『日本国語大辞典』・『日本庄園史大辞典』）

ぼう)¹⁹を減じ、官物を対捍(たいかん)²⁰す。蚕食(さんしょく)²¹の漸(よう／ぜん)²²、狼戾(ろうれい)の基(もとひ)なり。兼(かね)て亦(また)、在庁官人²³(ざいちょうかんじん)、郡司、百姓を以(もつ)て、庄官に補し、寄人²⁴に定め、恣(ほしいまま)に名田(みょうでん)²⁵を募(つ)り、課役(かやく／かえき)²⁶を遁(のが)れ避(さ)く。郡県の滅亡、乃貢(のうぐ)²⁷の擁怠(ようたい)、職而(もととして)、此(これ)に由(よ)る。庄園、相(あ)ひ共(とも)に、加納を注出(ちゅうしゅつ)し²⁸、濫行を停止し、国務(こくむ)に従はしめよ。若(も)し、庄家²⁹、事を左右(とこう)³⁰に寄

¹⁸ 公田：公田の意味は時代によって変化し、一律ではない。平安時代末期十一世紀後半の寄進地形荘園の広汎な成立を介して、荘園に対する語、すなわち公領を意味するようになった。
〔『荘園史大辞典』〕

延久元年の荘園整理令の発布に伴い、「籠作請公田」・「出作公田」・「加納公田」などの用法が生まれてくる。整理令では公田の加納は停止されたが、そこでは公田とは世紀の荘園(本免田)以外の土地を指している訳である。(『平安時代史事典』)

¹⁹ 率法：割合比率を定めた法令。また、その定められた割合。公田官物率法：11世紀中期以降から出現してくる段別の官物賦課額を定めている率法で、国毎に官符・宣旨により定められていた。(『平安時代史事典』)

²⁰ 対捍：逆らい拒むこと。特に、中世、年貢公事・課役・臨時恒例の雑役など、幕府・領主などに対して義務を負っている者が、強い意志をもって積極的にその義務の履行を拒否すること。

²¹ 蚕食：蚕が桑の葉を食べるように、他国または他人の領域や物などを片端からだんだんと侵してゆくこと。

²² 漸：徐々に進むこと。次第に加わり進むこと。

²³ 在庁官人：平安中期から鎌倉時代、国守の命に従って諸国国衙で実務を執った地方役人。平安以後、国守は地方に赴任しないで在京し代理人(目代＝もくだい)を派遣するようになったが、この目代と在庁官人の在勤する役所を留守所(るすどころ)という。在庁官人の多くは土着の地方豪族で、この職を世襲し次第に武士化して、鎌倉時代には御家人(ごけにん)となって目代と対立するようになった。(『日本国語大辞典』)

²⁴ 寄人：10～11世紀には、荘園の耕作者として国衙の課す臨時雑役を免除された人達を寄人と称した。しかし、11世紀中頃から、荘園領主の指向は荘内居住者を荘民として把握し、四至内国使不入の特権を獲得し、荘民を国衙の支配から切り離す方向に変わり、公民に相対するのは寄人でなく荘民となる。その結果、寄人から荘園の耕作者という意味は消滅し、寺院等に対して隷属関係を有する人達の呼称と変わっていく。彼らは寺院の威を借り公私の物のかすめ取る等の不法を常に行ったようで、その行為は保元の新制等で禁止の対象となっている。(『平安時代史事典』)

²⁵ 名田：平安中期から中世全般にかけて国衙領、荘園の土地制度上の編成単位である名(みょう)に属する田地。公領・荘園の賦課単位。開墾・買得あるいは領主の手による編成などの種々の原因で成立した一定規模の田地に、年貢・課役等の納入責任者の名を冠して、その権利を表明したもの。その責任者を名主と呼んだ。

²⁶ 課役：1) 律令制では「課」が調、「役」が庸と雑徭とを指す。ときに課に田租まで含める場合や、広く租税一般を指す場合がある。かやく。みつぎえだち。

2) 中世・近世では年貢や夫役など租税一般。

²⁷ 乃貢：年貢に同じ。

²⁸ 注出：書き記す。

²⁹ 庄家：荘園を支配するために本主の設けた事務所。または荘園を支配する人。荘園領主。

(よ)せて、理非を弁じ決せざれば、国司、状を勅(ろく)し³¹、早く言上(ごんじょう)³²を経(へ)、其(そ)の状跡に随(したが)ひて、且(かつう)は庄号を停廢し、且(かつう)は庄司を召し取り、檢非違使に下し、宜(よろ)しく糾弾(きゅうだん)³³せしむべし。但(ただ)し、宣旨并(ならび)に白川{河}、鳥羽両院庁下文(いんのちょうくだしぶみ)を帶(お)ぶれば、領家、件(くだん)の証文を進(まいら)せ、宜(よろ)しく天裁を待つべし。

現代日本語訳

一 (右の条と)同様に、諸国の国司に命令を下し、[以下の事を]やめさせよ：同じく、社寺院宮の諸家の荘園の本免の他、加納・余田及び荘民の不法行為の事。

[後白河天皇が]仰す。これらの荘園(国家が荘園として許可する荘園)等は、官省符に記載された土地、または勅によって免税が認められた土地をいう。四至と坪付が券契に明らかであるものを指す。しかし、末世の今となつては、人々は欲に溺れている。加納と号し、出作と称して、本免田の外の公田を押領し、むやみに(理非を分別せずに)、[官物の]賦課率を軽減し、官物の納入を拒否している。それは、まるで蚕が次第に葉を蝕む様なものだ。[この様な行為は]狼のように欲深く道理をなくすことの源泉である。それに加え、在庁官人・郡司・百姓を荘官や寄人に任命し、好き勝手に名田を募って、課役を逃れようとする。郡・県の衰退や年貢等を滞納することは、すべてこういった事が原因になっているのだ。それぞれの荘園(荘家³⁴)は[国衙とともに]に、加納田を書き出して示し、不法行為をやめ、国衙の命令に従え。もし、[荘家が]理由をつけて、理非をはっきりさせない場合は、国司は状況を書き記し、直ちに[中央政府に]報告せよ。そして、その状況にしたがい、あるいは荘園を廢止し、またあるいは荘司を召し捕らえて檢非違使に送検し、罪状を問いただして叱責せよ。ただし、[その荘園が]宣旨及び白河院・鳥羽院双方の院庁下文を所持して(宣旨や院庁下文によって許可されて)いる場合は、領家はそれらの証文を提出し、天子の裁断を待つように。

英訳

Item: Likewise, let orders be given to the governors of the various provinces to stop the expansion of *shōen*³⁵ by shrines, temples, royals,³⁶ and noble houses³⁷ including the

³⁰ 左右：あれこれ。なにやかや。いろいろ。

³¹ 勅：1) おさえる。制御する。2) とりしめる。すべる。統御する。整理する。3) ほる。きざむ。ほりつける。また、書き記す。ここでは、3)の意。

³² 言上：目上の人に申し上げること。

³³ 糾弾：罪状を問いただして非難すること。

³⁴ 荘家：荘官等、現地で荘園の管理を行った人達。

³⁵ 余田 (*yoden*): An addition to a *shōen* that was not officially documented and certified by the authorities. Although the precise definition of the term *yoden* remains uncertain, the term was often used in conjunction with *kanō* (see below), and to a certain extent the two were used interchangeably.

³⁶ 院宮 (*ingū*): *In* denotes retired sovereigns, retired consorts, and consorts; *gū* refers to queen dowagers, crown princes, etc.

adding of exempt fields beyond the original number, and other added fields,³⁸ as well as unlawful behavior by the residents of *shōen*.

Commanded: Such *shōen* have an official charter,³⁹ or they have been recognized as tax-exempt by a royal order. They have clear boundaries⁴⁰ and clear records of their location.⁴¹ Their documents are clear.⁴² However, in this degenerate age,⁴³ people are greedy. By claiming tax-exempt annexations and saying that they have opened fields beyond estate boundaries,⁴⁴ they take over public land⁴⁵ outside their tax-exempt holdings.⁴⁶ They unjustifiably reduce their tax payments and refuse to pay annual taxes.⁴⁷ The slow nibbling of silkworms⁴⁸ is the root of wolfish depredation.⁴⁹ Furthermore, [the proprietors of *shōen*] appoint resident provincial officials,⁵⁰ district officials,⁵¹ and wealthy cultivators *shōen* officials⁵² and designate them as dependents.⁵³ These later accumulate “named fields”⁵⁴ and evade grain and labor taxes. This leads to the decline of provincial administrative units and the ignoring of annual levies. So let [the

³⁷ 諸家 (*shoke*): Noble houses.

³⁸ 加納 (*kanō*) · 加納田 (*kanōden*): Formerly taxable land annexed to the originally tax-exempt portion of a *shōen*. Originally, the term denoted substitute fields legally cultivated in place of regular exempt fields that were being allowed to lie fallow. But as *shōen* proprietors succumbed to the temptation to cultivate both regular fields and substitute fields simultaneously, *kanōden* came to refer to unauthorized additions to a *shōen*'s tax-exempt holdings. (Piggott and Endō, Kanbun Workshop 2008)

³⁹ 官省符 (*kanshōfu*): A Council of State charter for a *shōen*.

⁴⁰ 四至 (*shishi*): The northern, southern, eastern, and western boundaries of a tract of land.

⁴¹ 坪付 (*tsubozuke*): Official measurements of a property's size and location.

⁴² 券契 (*kenkei*): Documents of proof, particularly proof of property proprietorship.

⁴³ 澆季 (*gyōki*): Frivolous age; the evil period of the world's existence leading to its end; the time when morality and religiosity disappear and the world becomes dissolute. (*Digital Dictionary of Buddhism*)

⁴⁴ 出作 (*shusshaku*): To open and cultivate new fields outside an estate—openers, who were estate residents, frequently tried to argue that they should be considered as belonging to the estate.

⁴⁵ 公田 (*kōden*): Public or state-owned land; land that was not privately owned.

⁴⁶ 本免 (*honmen*): The original tax-exempt fields of a *shōen*. A single *shōen* generally held multiple non-contiguous *honmen*, in contrast with the uninterrupted tracts of land owned by European manors.

⁴⁷ 課役 (*kayaku* or *kaeki*): Taxes.

⁴⁸ 蚕食 (*sanshoku*): To gradually encroach on another's land or possessions, just as silkworms eat away at a mulberry leaf.

⁴⁹ 狼戾 (*rōrei*): Immoral, unlawful behavior (as would befit a wolf). Note the juxtaposition of animal-related figures of speech.

⁵⁰ 在庁官人 (*zaichō kanjin*): Officials responsible for overseeing a province; they were employed by (and often acted in lieu of) provincial governors who preferred to remain in the capital. They were often drawn from the ranks of provincial elites, and over the course of the late Heian, their function became increasingly militarized. (*Nihon kokugo daijiten*)

⁵¹ 郡司 (*gunji* or *gunshi*): District officials responsible for overseeing a single district of a province.

⁵² 庄司 (*shōji* or *shōshi*): The steward or manager of a *shōen*, appointed by the *shōen*'s proprietor.

⁵³ 寄人 (*yoriodo*): A dependent, frequently one who served a noble house or proprietor.

⁵⁴ 名田 (*myōden*): Literally, “named paddy.” Land unit within which yearly taxes and services were collected, both within *shōen* and on public land (*kokugaryō*). (Yamamura, Kozo, ed. *The Cambridge History of Japan, vol. 3: Medieval Japan* p. 695)

provincial governors⁵⁵ and *shōen* [managers⁵⁶] together list up the additional fields, stop unlawful behavior, and make all comply with proper administrative procedures. If the *shōen* managers say this and that, and [the provincial governor] cannot determine the truth, let him write up a report of the situation and promptly submit it [to the central government]. Depending on the circumstances, the *shōen* should be disestablished, its managers arrested, or the royal police⁵⁷ should be ordered to interrogate them. However, if [the *shōen*] has been granted a royal decree, or an order by administrative headquarters of either Retired Tennō Shirakawa or Retired Tennō Toba,⁵⁸ then the *shōen* proprietor shall present documents of proof and await the judgment of the Son of Heaven.

⁵⁵ 国司 (*kokushi*): Provincial governor.

⁵⁶ 庄家 (*shōke*): Managers of an estate, local *shōen* notables or members of the administrative office of an estate. (Jeffrey P. Mass, *The Kamakura Bakufu* p. 209)

⁵⁷ 檢非違使 (*kebiishi*): Originally responsible for arresting criminals in the capital, the *kebiishi* later gained the authority to act as judges, and ultimately carried out the official functions of the Prosecuting and Investigating Office (彈正台, *danjōtai*) and the Ministry of Justice (刑部省, *Gyōbushō*) within the capital.

⁵⁸ 院庁下文 (*Innochō kudashibumi*): An order issued by the Office of the Retired Tennō.